

モニタリングの施策

1. 東京湾のモニタリング

- ・ モニタリングの充実
- ・ モニタリングデータの共有化及び発信
- ・ 新しい取組1(モニタリングポストの増設)
- ・ 新しい取組2(東京湾水質一斉調査)

2. 東京湾の水環境の現状

- ・ 汚濁負荷量
- ・ 水質・底質の状況
- ・ まとめ

1. 東京湾のモニタリング



□ モニタリングの充実

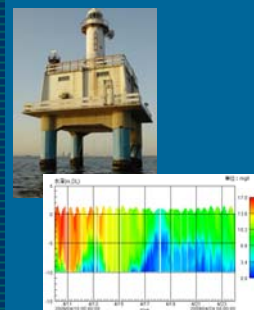
指標： 底層のDO(溶存酸素量)
目標に対応する目安：年間を通して底層生物が生息できる限度

水質調査の充実



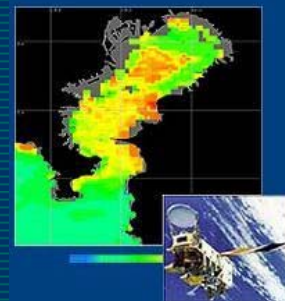
環境基準点(104箇所)、
広域総合水質観測地点(28箇所)等
における定期的な水質調査

モニタリングポスト



水質の24時間連続観測

衛星による観測



地球観測衛星を利用した
赤潮の挙動の把握

1. 東京湾のモニタリング



- モニタリングデータの共有化及び発信
 - 関連情報を集約したWEBサイトの整備、相互間のリンク



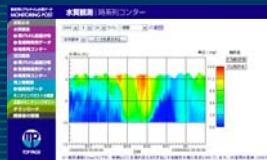
東京湾再生推進会議
http://www1.kaiho.mlit.go.jp/KANKYO/TB_Renaissance/index.html



東京湾水環境サイト
(環境省・国立環境研究所)
<http://www2.env.go.jp/water/mizu-site/mizu/wotb/top.asp>



東京湾環境情報センター
(関東地方整備局港湾空港部)
<http://www.theic.go.jp/>



東京湾リアルタイム水質データ
(海上保安庁)
<http://www1.kaiho.mlit.go.jp/KANKYO/SAISEI/>

1. 東京湾のモニタリング



- 新しい取組1:モニタリングポストの増設

③川崎人工島



①千葉港波浪観測塔



②千葉港口第一号灯標



平成22年度から、
水質等の連続観測を
実施予定

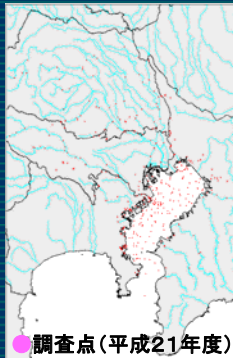
1. 東京湾のモニタリング



□ 新しい取組2: 東京湾水質一斉調査

- 平成20年7月、平成21年8月に実施
- 平成20年46機関・団体、平成21年141機関・団体が参加
- 後援: 日本経済団体連合会

● 調査風景



東京大学大学院

東京工業大学大学院

東邦大学

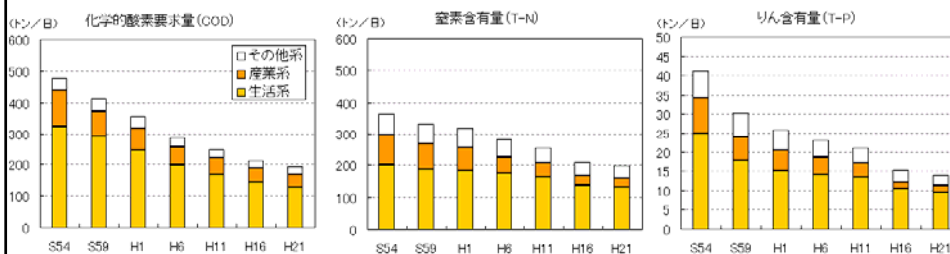
- 関係機関の連携、モニタリング調査の体系づくりの契機
- 汚染メカニズムの理解の推進
- 多様な主体の東京湾再生に対する関心を醸成

2. 東京湾の水環境の現状



□ 汚濁負荷量

- 東京湾におけるCOD、窒素、リンの発生汚濁負荷量の推移
(平成21年度の値は第6次総量規制における削減目標量)



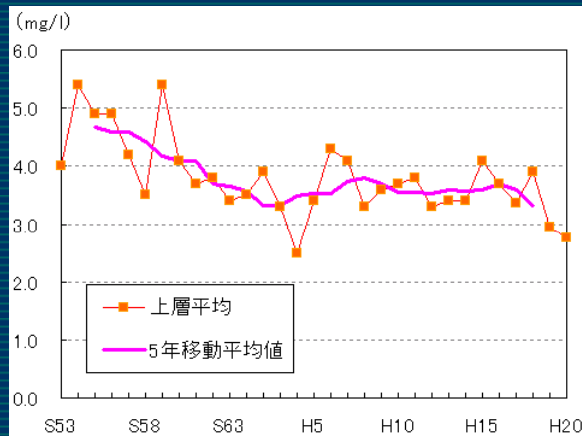
東京湾への汚濁負荷は着実に減少

2. 東京湾の水環境の現状



□ 水質・底質の状況

■ 湾内上層におけるCOD濃度の経年変化



全体的には減少傾向

平成5年以降にはほぼ横ばい

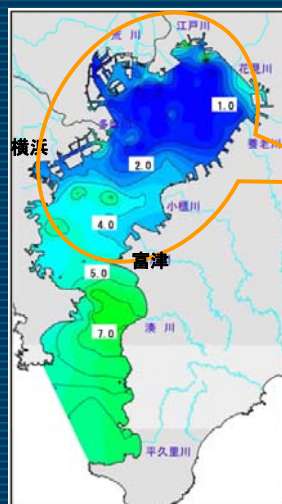
7/10

2. 東京湾の水環境の現状



□ 水質・底質の状況

■ 底層DOの分布(平成20年7月東京湾水質一斉調査結果)



4.3mg/L以下の貧酸素水塊が東京湾のほぼ全域を覆っている

8/10

2. 東京湾の水環境の現状



□ 水質・底質の状況

■ 底生生物の分布状況

2006年～2008年の夏の状況



生物調査: 同じ調査点でも結果のばらつきが大きい

底生生物の増減は不明

いずれの年にも底生生物のいない調査点がある

夏季に底生生物が生息できない環境がある

9/10

まとめ(モニタリング)



●モニタリングの取組

- ・行動計画に位置づけられた施策をおおむね着実に実施
- ・外部意見を取り入れ新たな取組を実施

●平成20年度夏季の状況

東京湾への汚濁負荷は着実に減少

湾内の汚濁も減少傾向

水質改善につながる結果

貧酸素水塊が発生

底生生物の生息が確認できない観測点

目標未達成
更なる施策の推進が必要

●外部からの指摘事項及び対応

- ・底泥を含めたモニタリング強化の必要性、連続観測の必要性及び再生推進会議と一般市民との協力体制の構築等について指摘されている。
- ・一般市民等多様な主体が参加できる、一層効率的かつ効果的なモニタリングの実施を図ることとする。

10/10